

環境活動レポート

2017

(対象期間：2016（平成28）年1月～12月)

発行日：2017年 5月 20日



日本エフディ株式会社



認証・登録番号 0001237

1. 会社概要（2016（平成28）年）

名称：日本エフディ株式会社

代表者名：代表取締役社長 金森 真一

設立：平成9年9月22日

営業開始：平成10年1月1日

資本金：90,000千円

所在地：〒399-8205 長野県安曇野市豊科2095-1

TEL 0263-72-5568/FAX 0263-72-5569

敷地面積：13,608m²

事業概要：凍結乾燥（フリーズドライ：FD）食品及び添加物の製造、販売

営業許可：そうざい製造業・乳製品製造業・添加物製造業・食肉製品製造業

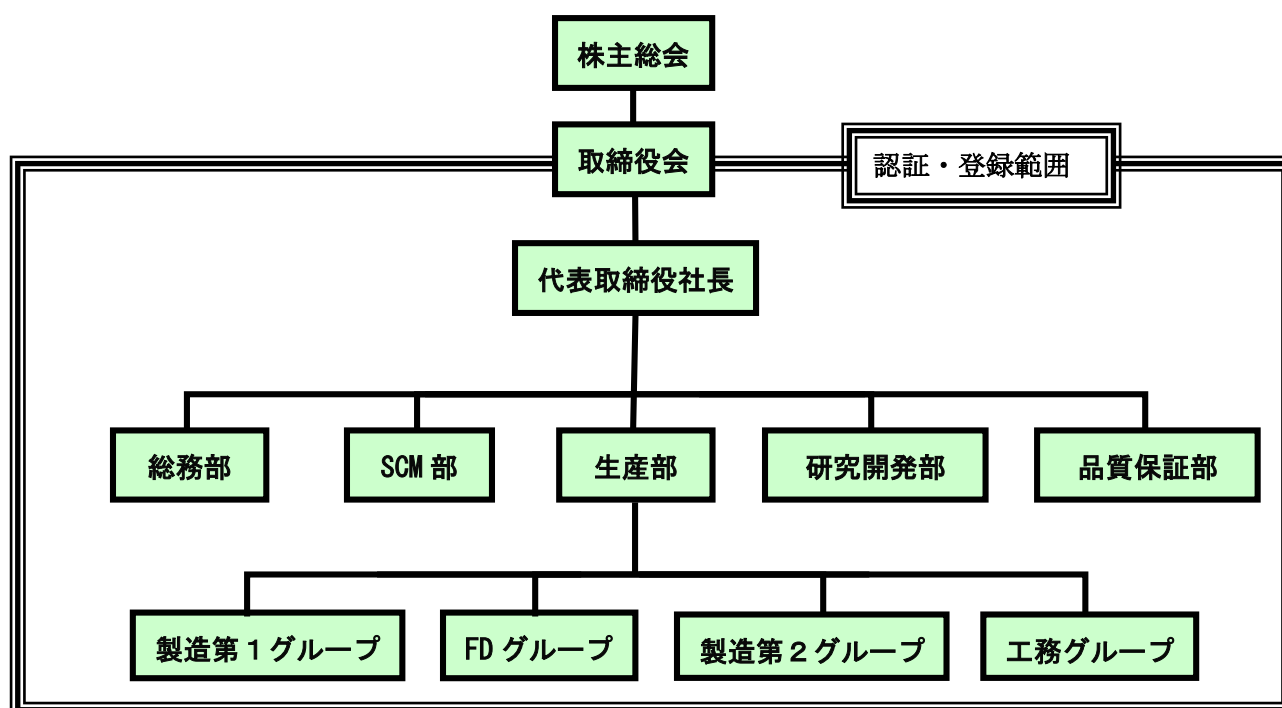
環境管理責任者：研究開発部長 横山 篤

事業規模：

生産量（2016年）	729.0t
売上高（2016年）	1,668百万円
従業員数（2016年12月）	63人
延床面積（2016年12月）	7,668m ²



2. エコアクション21対象・登録範囲と会社組織図



3. 「環境基本方針」・「生物多様性宣言」

環 境 基 本 方 針

基本理念

日本エフディ株式会社は、生鮮食品など自然の恵みを色・風味そのままに長期保存可能にするフリーズドライ食品の製造工場として、アサヒビールグループの環境理念のもと、「美しい地球の保全と人に優しく」を実現するために、「自然の恵み」を育んだ地球に感謝し、地球をより健全な状態で子孫に残すことを責務と考え、「低炭素社会」「環境型社会」「生物多様性」「自然の恵みの啓発」の4つのテーマを柱として環境課題に積極的に取り組み、持続可能な社会の実現に貢献します。

行動指針

- ① ゴミゼロの更なる追求と資源のリサイクル化推進、省資源化に努めます。
- ② 省エネルギー・CO₂の排出に繋がる、天然資源の使用・エネルギーの使用を見直してCO₂排出量の削減を目指します。
- ③ 「生物多様性宣言」を策定し実践します。
- ④ 環境に配慮した商品開発、技術開発、資材調達を行います。
- ⑤ 環境関連の法規制を遵守することは元より、独自の基準を定め実行します。
- ⑥ 社会の環境活動を積極的に支援すると共に、社会に貢献します。
- ⑦ 環境への取組を適切に情報開示し、社会とのコミュニケーションに努めます。
- ⑧ 環境保全活動を定期的に見直し、継続的な改善に努めます。
- ⑨ 環境教育・訓練等の実施により、環境保全の意識を高め、行動できる人材を育てます。
- ⑩ 地域住民の住環境の維持に努めます。

2012年3月22日
日本エフディ株式会社

代表取締役 社長

金森真一

生物多様性宣言

自然の恵みを守ろう

地球上のさまざまな生き物は、それぞれが役割をにない、バランスを保ちつつ、相互につながって生きています。

きれいな空気や水、おいしい食べ物や飲み物、私たちが日々生きていくために必要なすべてのものは、さまざまな生き物たちが与えてくれる自然の恵みです。

水や穀物など、自然の恵みを用いて事業活動を行なう私たちアサヒビールグループは、生物多様性を尊重し、より豊かな自然の恵みを守り、育み、次の世代へ伝えていきます。

「生物多様性宣言に係る3つの基本方針と9つの行動指針」

- 1 生き物たちのすむ自然を守ります（生物多様性の保全）
 - (1) 生き物がすむ、豊かな川や海を守ります。
 - (2) 生き物がすむ、豊かな森を守り、育てます。
 - (3) 生き物がすむ、豊かな環境を工場周辺でつくります。
- 2 自然の恵みを大切に活かします（生物多様性から得られる利益の持続可能な利用）
 - (1) 自然の恵みを正しく利用します。
 - (2) 自然の恵みを、より有効に利用します。
 - (3) 自然のつながりを学び、活かす研究開発を進めます。
- 3 世界中の人々と一緒に取り組みます（生物多様性の普及）
 - (1) この宣言をグループ全体で共有し、社員と共に取り組みます。
 - (2) 商品やサービスを通じて、自然の恵みの大切さをわかりやすく伝えます。
 - (3) ビジネスパートナーなどと協力し、グローバルに活動します。

以上

2012年3月22日

日本エフディ株式会社

代表取締役 社長

金森真一

4. 環境目標の策定（単年・中期）

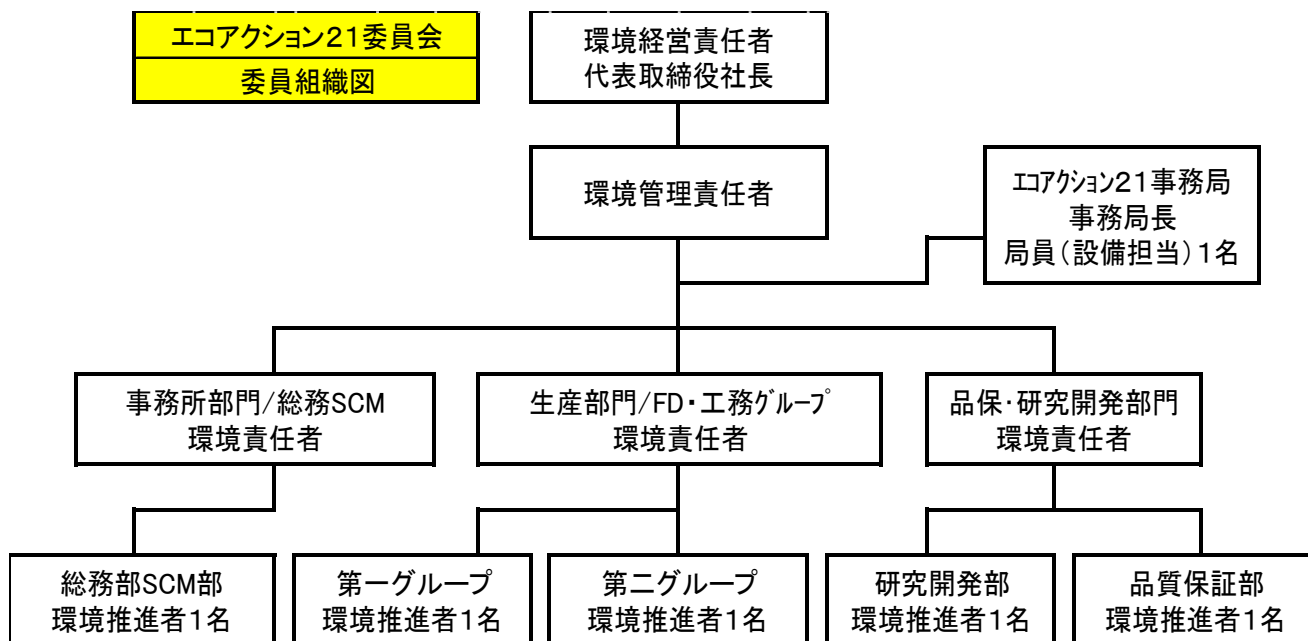
アサヒグループとしての環境取組み目標「アサヒ環境ビジョン2020」の達成目標数値をベースとして、環境基本方針と環境への負荷及び取組への自己チェックの結果を踏まえ、又事業活動の目標も考慮し、環境目標を策定した。

環境基本方針	管理項目	今年度の環境目標 (2016年)	中期計画最終年度の環境目標 (2018年)
省エネルギー、CO ₂ 排出量の削減	1) 電気・灯油の効率的な使用 2) 車によるCO ₂ 排出量の削減	1) 2008年度実績に対して17%削減 2) 2010年度通勤車両のCO ₂ 排出量に対して17%削減	1) 2008年度実績に対して20%削減 2) 2010年度通勤車両のCO ₂ 排出量に対して20%削減
水資源の保全	1) 水の効率的な使用 2) 排水の水質管理の徹底	1) 2008年度実績に対して15%削減 2) 自主排出基準の厳守・排水関係事故0件	1) 2008年度実績に対して20%削減 2) 水資源の確保 3) 排水関係の事故0件
廃棄物の削減、リサイクルの推進	1) 廃棄物の削減 2) リサイクルの推進	1-1) 廃棄物を2008年度実績に対して30%削減 1-2) 食品廃棄物を2008年度実績に対して34%削減 2) 食品廃棄物100%のリサイクル化継続	1-1) 廃棄物を2008年度実績に対して40%削減 1-2) 食品廃棄物を2008年度実績に対して42%削減 2) 食品廃棄物100%のリサイクル化継続
環境にやさしい製品調達の推進	環境にやさしい文具の把握及び調達計画の立案、推進	1) 環境にやさしい製品サービス及び資材の調達、資材のグリーン調達25%以上	2) 環境にやさしい製品サービス及び資材の調達、資材のグリーン調達40%以上
情報開示、コミュニケーションの推進	1) 環境情報の発信 2) 主要協力会社等との環境活動の実施 3) 地域との環境活動の推進	1) 環境活動レポートの公表 2) 環境活動への協力要請 3) 工場周辺美化活動	1) 環境活動レポートの公表 2) 環境活動への協力要請 3) 工場周辺美化活動

5. 環境活動計画の内容

1) エコアクション21委員会組織について

・エコアクション21活動の推進のため、エコアクション21委員会を組織し、引続き活動を行った。



役割・責任・権限一覧表

	役割・責任・権限	活動	頻度
環境経営責任者	<ul style="list-style-type: none"> ● 環境経営に関する統括責任 ● 環境管理システムの実施及び管理に必要な経営資源を用意 	環境目標設定	年次
環境管理責任者 ・事務局	<ul style="list-style-type: none"> ● 環境管理システムを構築、実施、管理 ● 環境活動実施計画の実績集計 ● 環境関連の外部コミュニケーションの窓口 	環境活動計画作成	年次
		エコアクション21委員会開催	月次
環境責任者 環境推進者	<ul style="list-style-type: none"> ● 自部門における環境管理システムの実施 ● 自部門の従業員に対する環境訓練の実施 ● 自部門に関連する環境目標および環境活動計画の実施、達成状況の報告 ● 自部門に必要な環境関連手順書の作成、運用管理 ● 自部門に必要な緊急事態への対応のための手順書作成、テスト、訓練、記録 ● 自部門の問題点の発見、是正、予防措置 	各部門活動計画作成	年次
		部門毎の環境チェックリスト作成	逐次
		週毎にチェックリスト運用	毎週
		四半期毎各部門活動進捗まとめ	四半期
		部会の開催	月次
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> ● 環境基本方針の理解と環境への取組の重要性を自覚 ● 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加 	チェックリストに基づく自己チェック	毎週

2) 環境活動計画の内容と取り組み

目標	環境目標値 (絶対値)	電機・灯油・水 活動目標値 (2016年FD釜 稼働数ベース)	活動目標	行動目標	責任 者	実施 者
2016年環境活動計画目標値の設定について						
<p>環境目標値(合計数量値)に対し、凍結乾燥(FD)機の釜稼働が会社業務の柱であり、釜稼働は受注製品量の増減に伴い増減する装置産業としての実態を踏まえ、釜稼働数と使用量の相関関係にある電気・灯油・水について、活動計画の目標値として、<u>基準年(2008年)の釜稼働実績1釜当りの使用数量を原単位として、環境活動としての目標値を設定し、2016年の活動取組みを行った。</u></p> <p>また、その他の項目については、環境目標値としての達成状況を踏まえ、<u>前年比削減目標を設定し、2016年の活動に取り組んだ。</u></p> <p>【削減目標設定の基準年(2008年)実績：FD時間 21,284.75h 釜数 924】</p>						
省エネルギー・CO2排出量の削減						
1) 電気・灯油 効率的な使用 ・電力使用量 削減	2008年実績比 17%削減 目標値 3,375千kwh	2008年FD1釜 当りの電気使用 量 実績 = 4,386.3kwh/釜 1釜当りの電 気使用量を基準 として、削減目標 値 17%削減とす ると= 3,640.6kwh/釜 2015年FD1釜 当りの電気使用 量= 3,367.0kwh/釜 1釜当りの削 減目標は達成済 み	◎FD 1釜当り の電気使用量2015 年比 1%削減= 3,333.3 kwh/釜 【チャレンジ目 標】 ○FD 1釜当り の電気使用量を前 年比 3%削減= 3,266.0 kwh/釜 ○機器使用時間の 把握	主要品目のFD 時間を前年比 1%短縮	事務局 担当 部長	委員
				新製品設計時、電 力削減する工程 策定	担当 部長	委員
				既存製品の行程 見直しによる電 力削減	担当 部長	委員
・灯油使用量 削減	2008年実績比 17%削減 目標値 403KL	2008年FD1釜 あたりの灯油使 用量=523.8 ㍓/ 釜 1釜当りの灯 油使用量を基準 として、削減目標	◎FD 1釜当り の灯油使用量を前 年比 1%削減= 419.1 ㍓/釜 【チャレンジ目 標】	主要品目のFD 時間の1%短縮	事務局 担当 部長	委員
				新製品設計時、灯 油削減する工程 策定	開発 部門	委員

		<p>値 17%削減とすると＝ 434.7 ㍲/釜 *2015年FD1釜あたりの灯油使用量＝423.3 ㍲/釜 1釜当りの削減目標は達成している</p>	<p>○FD1釜当たりの灯油使用量を前年比3%削減＝ 410.6 ㍲/釜</p>	<p>既存製品の行程見直しによる灯油削減</p>		
				<p>蒸気漏れ時の対応と予防策の作成</p>	<p>事務局 担当部長</p>	<p>委員</p>
				<p>機器の更新による省電力化</p>	<p>事務局 担当部長</p>	<p>委員</p>
・使用機器の把握	全機器リスト化		<p>○蒸気漏れの予防対策の作成・保温</p>	<p>機器の保全リスト作成</p>	<p>事務局 担当部長</p>	<p>全社</p>
2) CO2排出量の削減：車からの排出量削減	2010年実績比 17%削減		<p>○通勤車両からのCO2排出量の削減</p>	<p>運転教育</p>	<p>事務局</p>	<p>全社</p>
水資源の保全						
1) 用水(地下水) ・使用量の削減	2008年実績比 17%削減 目標値 120.1 千m ³	<p>2008年FD1釜あたりの水使用量＝156.1 m³/釜 1釜当りの灯油使用量を基準として、削減目標値17%削減とすると＝129.6 m³/釜</p>	<p>◎FD1釜当たりの水使用量を前年比30%削減＝ 148.2 m³/釜</p>	<p>冷却水の削減 60%</p>	<p>事務局 担当部長</p>	<p>委員</p>
		<p>2015年FD1釜あたりの水使用量＝211.8 m³/釜 未達成となる。 新たに前年比目標設定する</p>	<p>**水使用量内訳** 生産活動用水 11% カサバ冷却水 38% その他冷却水 51%</p>	<p>部門毎水使用時間の把握と短縮</p>	<p>担当部長</p>	<p>委員</p>
				<p>新製品設計時、水削減する工程策定</p>	<p>開発部門</p>	<p>委員</p>
				<p>機器の更新による水使用量の削減</p>	<p>事務局 担当部長</p>	<p>委員</p>
2) 排水関係事故ゼロ			<p>○排水関係事故 0件</p>	<p>排水処理設備の安定管理</p>	<p>事務局</p>	<p>委員</p>

3) 排水の清浄化			○排水の均一化	排水処理負荷の均一化	事務局	委員
				高濃度排液処分方法の検討	事務局	委員
廃棄物の削減、リサイクルの推進						
1) 廃棄物排出量の削減	2008年実績比 30%削減 目標値 131t		○産業廃棄物 2008年実績 186.8 t 比 30%減 =131 t ○チャレンジ目標 破損による備品の廃棄 2%減=3.7 t (2015年排出量 3.8 t 見込み)	廃棄物排出量前年実績維持	担当部長	委員
				開発部門で試作原料の削減・リサイクル	開発部門	委員
				新製品・既存製品の導入資材の簡素化	開発部門	委員
				作業ミスによる備品の破損の低減	事務局	委員
2) 食り法に基づく食品廃棄物発生の抑制 ①発生の抑制	2008年実績比 34%削減 目標値 45t	廃棄損の削減 製造不良の削減 期限切れ廃棄の削減	○食品廃棄物： 2015年実績の維持 (2015年排出量 35 t 見込み) ○チャレンジ目標： 不具合による廃棄量前年比 20%減の 2.2 t (2015年 2.7 t 見込み)	食品廃棄物の再生利用を優先順位の高いものから取り組む	事務局	委員
				生産部門で製造不良品を重量ベースで 2 割の削減	担当部長	委員
				試作品食品廃棄物の削減・リサイクル	開発部門	委員
				新製品及び既存品食品廃棄物削減する工程策定	開発部門	委員
②再生利用	目標値 100%再利用		○食品廃棄物の再利用 100%	間接部門の食品廃棄物（生ゴミ）の軽量化の継続	担当部長	委員
				食品廃棄物のガス化の継続	事務局	委員
環境にやさしい製品の購入						
1) 環境にやさしい製品	資材のグリーン調達		○事務用品使用金額の把握	全社的な事務用品使用金額の把握	担当部長	委員

購入	25%以上			握		
2) 間接部門 資材の削減	資材・事務用品の適正化		○資材・事務用品のグリーン調達 ○製品包材の簡素化	資材のグリーン調達の推進	担当部長	委員
				新製品・既存品の資材を簡易包装化もしくは資材のグリーン調達の推進	担当部長	委員
情報の開示、コミュニケーションの推進						
1) 環境情報の発信 2) 主要協力会社との環境活動の充実 3) 地域との環境活動の推進			○環境レポートの活用 ○グループ内・協力会社間での情報の共有 ○地域との環境活動の推進	環境レポートを当社ホームページに掲載し情報を発信する	事務局	事務局
				グループ内の情報共有を行う 協力会社との情報共有を行う	担当部長	委員
				会社周辺の清掃活動を行う	担当部長	委員

3) 教育訓練及び緊急時対応の取組について

①教育訓練

社内教育（全社員・関連社員）は、新入社員への教育を都度実施した。

月毎のユーティリティー使用状況を掲示し、活動計画の進捗状況を全社員に把握してもらった。

部門内教育（各部門社員に対して）は環境委員に対して委員会活動を通して実施した。

社外教育（環境関係各講習会・研修会、関係法令講習会・研修会、省エネの研修会）も環境委員のスキルアップを主体として受講することができた。

②緊急時対応訓練

緊急時の対応は3項目あるが、訓練は年1回 3項目の中の1項目を行い、3年で全項目を完了することとしている

本年の緊急時対応訓練は10/27に行った。本年は、灯油の公共水域への流出時の対応訓練を行った。次年度は苛性ソーダの公共用水域への流出時の対応訓練を行う。

6. 環境数値目標に対する実績（2016年1月~12月）

増減：○削減目標達成、△削減、×増加

取り組み項目	基準年 2008年 / 釜数 927 釜 排出量使用量等	2016年目標 目標値(合計数値) 活動目標(1釜当り)	2016年実績 / 釜数1,244釜		増 減
			排出量使用量等	目標比増減	
電気使用量の 削減	4,066千kwh	2008年比17%減 3,375千kwh	4,365千kwh	2008年比107.4%	×
		釜当り2015年比1%減 3,333.3kwh/釜	3,509.1kwh/釜	釜当り2015年比 105.3%	×
灯油使用量の 削減	485.6kl	2008年比17%減 403.1kl	556.4kl	2008年比114.6%	×
		釜当り2015年比1%減 419.1ℓ/釜	447.3ℓ/釜	釜当り2015年比 106.7%	×
CO2発生量の 削減	3,616.3t-CO2	2008年比15%削減	3,858.8t-CO2	2008年比106.7%	×
用水使用量の 削減	144,723m ³	2008年比17%削減 120,120m ³	165,254m ³	2008年比114.2%	×
		釜当り2015年比30%減 148.2m ³ /釜	132.8m ³ /釜	釜当り2015年比 89.6%	○
廃棄物排出量の 削減	186.8t	2008年比30%削減 130.7t	122.0t	2008年比64.8%	○
食品廃棄物排出 量の削減	67.5t	2008年比34%削減 44.6t	15.0t	2008年比22.2%	○
		2015年実績の維持 25.1t	15.0t	2015年比59.8%	○
食品リサイクル率 の向上	リサイクル率 100%	リサイクル率 100%維持		リサイクル率100%	○
グリーン品購入 の促進		グリーン調達 25%以上	グリーン購入: 210/495品目	42.4%	○

【環境レポート作成にあたり使用した電気事業者別二酸化炭素排出係数について】

- ・2016年通産省発表：中部電力 二酸化炭素 調整後排出係数0.494 (kg-CO₂/kWh)を使用

7. 環境活動計画の取組み結果とその評価、次年度の取組み内容

(1) 環境活動計画の取組み結果とその評価

活動における評価については、「アサヒグループ環境ビジョン2020」のグループ達成目標数量に準じて設定した絶対数量目標値はあるが、実態としての活動評価としては、受注が中心の装置産業的な業務形態による乾燥機稼働数の増減を踏まえて、「釜当り使用量原単位目標値」を合わせて評価する。

① 釜数比較：2016年釜数は、基準年2008年比135%の釜数増加。

年	1-12月計	基準年比
2008年(基準年)	924	100%
2015年	1294	140%
2016年	1244	135%

② 釜当り使用量を原単位とした使用量比較：

灯油			電気			水		
年	灯油使用	原単位	年	電気使用	原単位	年	水使用量	原単位
	L	L/釜数		kwh	kwh/釜数		m3	L/釜数
2008年	485,600	520	2008年	4,066,092	4,358.1	2008年	144,723	155.1
2015年	539,200	418	2015年	4,343,964	3,367.4	2015年	247,504	191.9
2016年	556,400	447	2016年	4,365,312	3,509.1	2016年	165,254	132.8

廃棄物			食品廃棄物		
年	排出量	原単位	年	排出量	原単位
	kg	kg/釜数		kg	kg/釜数
2008年	186754	200.2	2008年	67,524.0	72.4
2015年	133757	103.7	2015年	25,174.4	19.5
2016年	121981	98.1	2016年	14,979.0	12.0

③ CO₂排出量の年度比較：

年	項目	単位	年間排出量
2008年	排出量	t	3,616
2015年	排出量	t	3,901
	排出量2008年比(目標85%)	%	108
	排出量(前年比)	%	118
2016年	排出量	t	3,859
	排出量2008年比(目標85%)	%	107
	排出量(前年比)	%	99

※2015年電気CO₂排出量調整後係数：0.509 / 2016年電気CO₂排出量調整後係数：0.494

・釜（乾燥機稼働数）当たりを原単位とする使用量比較では、基準年2008年比、灯油、電気、水、廃棄物、食品廃棄物ともに「効率化」を達成しているが、総量としては釜稼働数年間合計が35%増加しており、CO₂排出量としての目標は未達成の結果となった。

・釜数＝エネルギー使用量の増減の観点からの原単位比較については、一応実態を反映した比較方法であると評価できるが、もう少し突き詰め、釜毎の脱水量としての比較をしてみると、次の通り1釜当り脱水量に差がある。2016年は前年と比較して1釜当り脱水量は115%。

脱水量(t)	2008年	828	0.89t/釜
	2015年	1,286	1.00t/釜
	2016年	1,486	1.15t/釜

2016年は2008年比では129%。

・脱水は、容器内を真空状態にした中で「昇華」の為にエネルギーを加える事で、連続的に昇華脱水が進む事を考えると、2015年との比較では1釜当りの脱水量が多かった為、1釜当りのエネルギー使用量としての前年比削減達成できなかった要因だったと考えられる。

・次年度の原単位での比較は、脱水量当たりの灯油、電気、水、廃棄物の比較で前年減を目指し活動を行うようにする事としたい。

・日常活動における、各部署単位の「環境チェック表」の運用は、月次のエコアクション21委員会の開催と合わせ、四半期毎の取り纏め発表と振り返りを実施し、全員参加での環境意識の維持強化と廃棄物削減、省エネなどに継続的な取り組みが出来たと評価する。

（2）次年度の取り組み内容

次年度見直しが必要な活動内容について課題は次の通り。

- 1、灯油、電気使用量削減目標として、脱水量1kg当りの使用量を原単位とした目標を設定して取り組む。
- 2、CO₂排出量の削減として、通勤車両のCO₂削減のために燃費向上の啓蒙だけでなく、電車通勤の推奨を次年度に向けて整備する必要がある。
- 3、食品廃棄物削減として、製造ミスによる不具合の削減のために現場との情報の共有化を進め現状の把握をし、ミスを無くす為の手順を現場作業員全体で検討する。
- 4、次年度計画されている設備導入は、工務部会等で協議し、導入後はエネルギー推移を確認して行く。
- 5、エコアクション21委員会活動を維持し、各部署単位での環境活動を活性化する為、各部重点課題として積極的に取り組む。

8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

①環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価

遵守状況確認日 平成 29 年 2 月 24 日

法令等	遵守状況	評価
水質汚濁防止法	各規制値はそれぞれ監視・測定の結果、規制値内で管理されている	○
下水道法	各規制値はそれぞれ監視・測定の結果、規制値内で管理されている	○
廃棄物処理法	廃棄物保管場所の表示は指導要項に沿って掲示されている 契約書・帳簿・管理票・管理票交付状況報告 各書類は適正に管理されている 産業廃棄物管理票交付等状況報告書は提出されている 契約している産業廃棄物処分場の許可証・現地の確認が行われている	○
高圧ガス保安法	冷凍機保安検査が実施されている	○
安曇野市公害防止条例	特定施設の届出書類は適正に管理されている	○
省エネルギー法	第二種エネルギー管理指定工場届済	○
フロン排出抑制法	対象機器の廃棄は行われておらず、冷凍機は適正に管理されている	○
毒劇物取締法	対象物は適正に管理されている。	○
消防法	危険物地下タンク定期自主点検・消防設備等点検結果報告	○
騒音規制法	規制値は監視・測定の結果、規制値内で管理されている	○
大気汚染防止法 安曇野市環境保護条例	対象となる機器の設置・変更は行われておらず適正に管理されている	○
長野県地球温暖化対策条例	排出抑制計画及び達成状況の報告は行われている	○
家電リサイクル法	特定家庭用機器の廃棄は行われていない	○
自動車リサイクル法	社有車の廃棄は行われておらず、適正に管理されている	○
食品リサイクル法	食品廃棄物再生利用等の 2011 年基準実施率：達成(実施率 100%) 食品廃棄物発生量抑制の実施量把握 食品廃棄物再生利用の実施量把握 食品廃棄物減量の実施量把握	○
PCB 廃棄物の適正な処理の 処理の推進に関する特 別措置法	廃棄物保管場所の表示は指導要綱に従って掲示されている 保管状況の報告書も提出されている	○

・環境関連法規については、環境関連法規遵守チェック表にて取りまとめ評価し、定期的にチェック・見直しを実施し、違反、漏れが合った場合は是正する仕組みを作り、計画通り実施した。

②過去 3 年間関係当局から環境関連法規制に付いての指導・指摘は 1 件もなかった。

③奉仕活動としての社外清掃活動を行う事による周辺美化、法令遵守による公害防止により訴訟・指摘は 1 件もなかった。

9. 代表者による全体評価と見直しの結果

【代表者としての評価】

ユーティリティーは脱水1kg当たりの使用量を比較し、しっかりした原因追究に基づいた対策立案ができる仕組みを作っていく。

省電力のための新規設備のテストは芳しくなかったため中断するが、省エネ設備は中期的な大きな課題であるため、太陽光発電設備、冷凍設備等の導入に向けて情報収集に着手し、具体的な計画の策定を推進していく。

自責不具合による廃棄損は大幅な削減が出来てきているが、引き続き撲滅を目指して事実確認、原因追究をより深掘りして抜本的な対策が立案できるようPDCAを廻していく。

各環境活動は項目を更新したり、新たな施策を立ち上げて活性化に努め、全社的な意識向上につなげていく。

以上